本邦でのECPR・TTMの現状

演者
聖路加国際病院 救急部・救命救急センター 副医長

一二三　亨 先生

ECPR(Extracorporeal cardiopulmonary resuscitation)は本邦の多くの救急医療機関で盛んに行われています。
しかしながら、ECPRに関する世界的に統一されたガイドラインは存在しないため、各施設が独自の基準でECPRを開始し、それぞれのやり方で行なっているのが現状だと思います。そのような状況の中、日本以外の世界ではECPRは行われているのだろうか？とか自施設のやり方は本当に正しいのだろうか？他の施設のやり方と同じなのか、違うのか？ふと気になることがありませんか？今回のセミナーでは、そのような疑問についてデータ解析を基にECPRの現状について明らかにしたいと思います。

1. まず、世界でのECPRの現状についてお示しします。我々が2019年にPubmedに掲載された研究論文を基に調査した結果では、図1のようになります。その結果、もっとも多く成人院外心停止患者に対するECPRの患者を報告しているのは東アジアで日本、韓国、台湾でした。ドイツ、フランス、イタリアなどのヨーロッパ諸国、アメリカ合衆国が続いています。南米チリからも症例が報告されていました。

2. 続いて、本邦におけるECPRの現状を把握するために2020年にSAVE-J II study参加の36施設にアンケート調査を行いました。日本全体でのECPR分布を図2にお示しします。本調査では、ECPRの適応基準、除外基準からそもそも誰がどこでカニュレーションしているのか？CTはどのタイミングで撮影しているのか？ IABPはルーティンで入れているのかどうか？PCIの際の気道管理は誰が担当しているのか？など日常診療での多くの疑問についてアンケート調査を行いましたので、その詳細を報告致します。

3. また、ICUでの管理についても気になるところです。TTMの冷却時間は？設定温度は？特殊な薬剤を使用している？Kの目標値は？などICU管理についても別にアンケート調査を行いましたので、解析が間に合えばその点につきましてもご報告したいと思います。

図 1

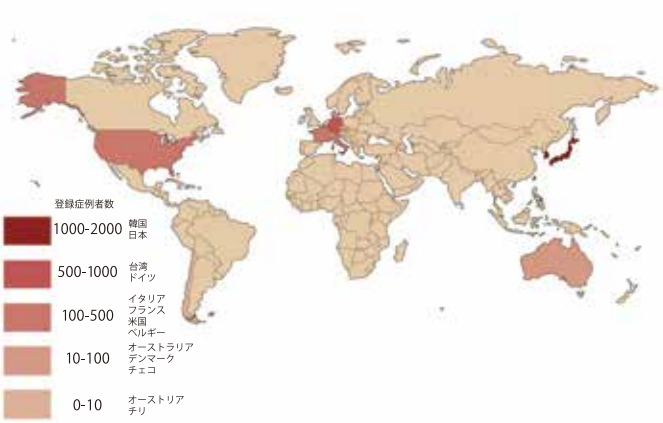
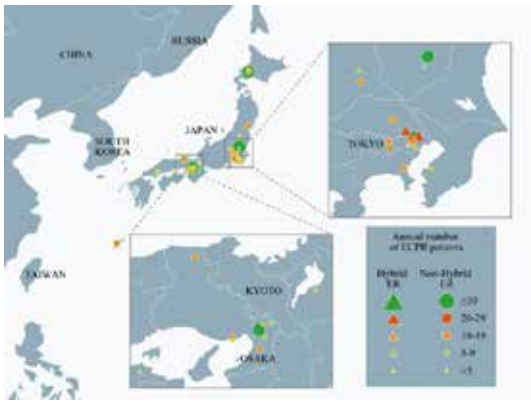
図 2